



○春の夏日と今年の豪雨の影響か？



田植え作業も一段落し、にら・わらびについては出荷を開始してから、約半月が立ちます。今シーズンの春は連休中の強風から、5月第4半旬(20日～26日)の夏日が特徴的でありました。昨年から継続して栽培している作物についてはこの度の高温・干ばつ、そして、今年の2回に及び豪雨が根に障害を与えているものと思われます。これから、梅雨時期を迎えるにあたり、それらを考慮したうえで管理を行う必要があります。根を充実させるためにも、

長雨が続く場合は明きよの設置、MOX等の酸素供給剤の使用が効果的です。また、梅雨明け後は乾燥が続く、害虫の発生が顕著に見られるようになります。病害の防除と合わせ、7日～10日間の間隔で防除をお願いします。



○もし、農薬を使わなかったとしたら…

右表は農薬を使わなかった場合の病害虫による収穫量の減少率を表しております。根菜の大根では39%、きゅうりでは61%、きゃべつでは67%も収穫量が減ります。農薬を使わない場合は生産費に占める農薬代はゼロとなり、コストは抑制されますが、収穫量が減り当然収入は減ります。農薬を効率良く使用することが、収量増への近道でもあります。

作物	減収率(%)		
	最大値	最小値	平均値
きゃべつ	100	10	67
レタス	82	69	77
きゅうり	88	11	61
トマト	93	14	36
なす	75	21	48
だいこん	100	4	39



農薬の回数を減らしたら減収しちゃったー。

○青果物販売傾向(5月荷受実績集計)

5月の販売傾向については、中旬の夏日のような猛暑、また、今年の豪雨の影響により出荷量は全体的には少ない傾向となっています。また、階級を前年と比べてみると太物の割合は低い状況となっています。単価につきましては市場入荷量が少なく、やや高値での取引となっています。ここ数年は野菜全般において高単価の傾向ではありますが、市況に左右されないまでの面積の維持・拡大は今後の検討事項でもあります。(にら及びわらびは加工を含まず。)

にら

	数量(kg)	単価(円)
前年	20,568	356.79
今年	12,796	372.98
前年比	62%	105%

わらび

	数量(kg)	単価(円)
前年	5,790	530.66
今年	3,960	564.81
前年比	68%	106%

アスパラガス

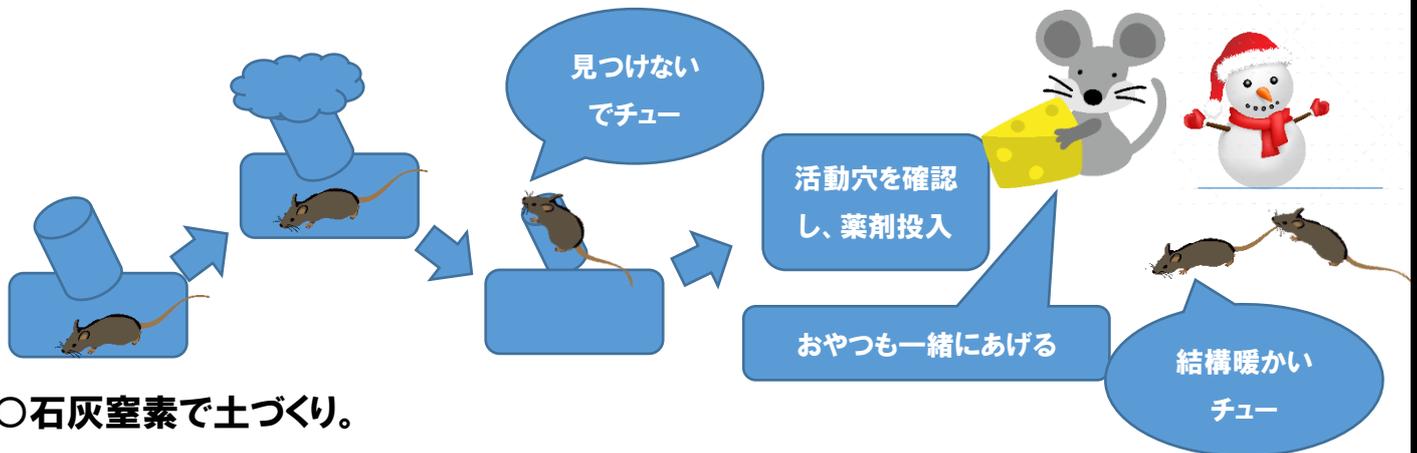
	数量(kg)	単価(円)
前年	170.9	1,175.47
今年	253.1	942.04
前年比	148%	80%

裏面にも情報があります。

○ネズミ対策について

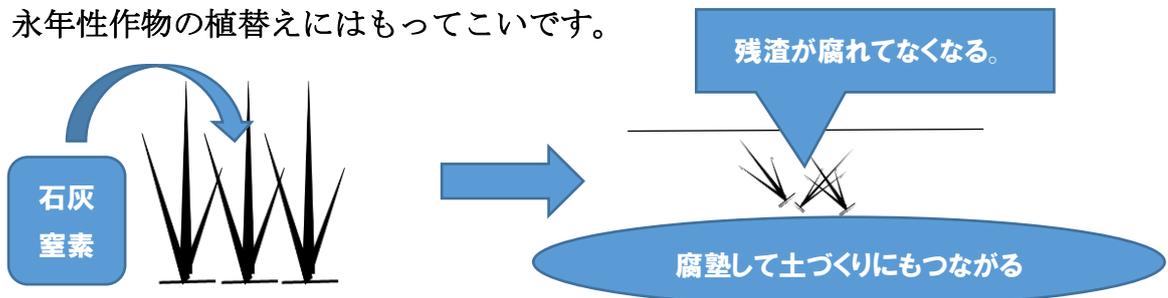
せっかく植えた作物がねずみから食害されてしまうことは良く話に聞きます。ここでは効果的なねずみ対処法についてご紹介します。

- ①そ穴(ネズミの生息する穴)を塞ぎ、活動している穴を見つけ、その穴を中心に薬剤を投入する。
- ②毎年被害が見られる場合は、春期繁殖前と秋期収穫後の2回防除を行う。(雪の下でも活動するので積雪前に施す。耐水性の小袋になっているラテミンリン化鉛がおすすめ。)
- ③Z・P等の薬剤にネズミが好む食べ物(雑穀等)を混ぜて投入する。



○石灰窒素で土づくり。

石灰窒素は昔ながらの肥料で農家なら一度は耳にしたことがあると思います。この肥料は他の肥料と比べてちょっと違った特徴を持っています。今回は、石灰窒素の土づくり効果について説明いたします。生残渣をそのまますき込むと、病害虫の発生など悪影響を及ぼす恐れがあります。そこで石灰窒素を施用すると、腐熟促進により、残渣はなくなり土づくりも兼ねて病害虫を防げる訳になります。永年性作物の植替えにはもってこいです。



野菜残渣すき込み 10 kg/10a(それより多く施用する場合は、基肥は加減します。)
他、腐熟促進する肥料は根友・酵素でくさーるがあります。

○資材・どぶづけで根の活着促進

夏作物は大体の人が定植は終わっていると思いますが、まだ、お済でない人やこれからの作物を植える人はどぶづけと言ったひと手間を行ってみませんか。苗の根をどぶづけしてから定植をすると根の活着は違ってきます。ぜひ、お試しください。

(例)ファイトオーツー1,000倍にどぶづけ



○要望・ご質問の受付

取り上げてほしい記事や疑問に思っている野菜に関することは下記連絡先までご相談ください。

金山農協 営農部 担い手対策課 五十嵐 Tel.0233-52-2892・090-4636-8016